

ラジオ

札幌市医師会
勤医協中央病院

鈴木 龍弘

皆様は最近ラジオを聴いていますか？ 中学高校時代は勉強のお供として、またFM放送音楽のエアチェックで世話になったが、その後はさっぱり、という方も多いかと思われます。

拙宅では、地上波テレビ放送がアナログからデジタルに変わる時期に、テレビが壊れました。品薄で買い替えがしばらくできない時期が半年ほどありました。この時からテレビっ子の妻もラジオをよく聴くようになりました。

最近ではネット放送により、電波状態が悪くても、リアルタイムでなくても聴けたりします。NHKは「らじる☆らじる」、民放は「radiko」です。PCのみならず、スマホやタブレットでもアプリを導入すれば聴けます。radikoの有料版では、全国の放送が聴けます。

以下におすすめ番組を紹介させていただきます。

1：社会の見方・私の視点

NHKラジオ第一放送、月曜～日曜午前5時から。「マイあさラジオ」のコーナーで、ラジオ体操の直後に放送されます。NHKなのに政権に批判的な出演者も多いです。NHKテレビの画一的な内容とは一味違います。

2：ちきゅうラジオ

NHKラジオ第一放送、土曜・日曜午後5時5分から。大相撲や高校野球のときは6時から放送されます。前世紀からの長寿番組です。世界各地のローカルネタやグルメ情報は雑ネタに十分です。

3：建山義紀の「ほな、ウチおいで！」

HBCラジオ、月曜日午後6時から。元日ハム投手、元大リーガー、侍ジャパン投手コーチである建山義紀さんが、野球を含めたいろいろな話をしてくれます。

4：5丁目STATIONアキトム！（3スタ生）

HBCラジオ、月曜午後7時から。かなり笑えますので、一度聴いてみてください。個人的にはドラマハウスのコーナーが一押しです。

5：荻上千キ・Session-22

HBCラジオ、平日午後10時から。時事問題をゲストとともに深掘りしてくれます。放送時間が遅いので、昼食時にradikoのタイムフリーで聴くことが多いです。

6：ステドラ！～STATION DRIVE SATURDAY～

FM North Wave、土曜日12時から。ヒロ福地と森ルナのほぼ漫才状態番組です。前身含め2005年からの長寿番組です。NEW CHITOSE AIRPORT Fleur presents SATURDAY LOUNGEでは、日本各地の名産品を、その土地の見所を織り交ぜながら紹介しています。

なお、以上の内容は、2018年3月時点のものです。

遠隔診療に関わるICTの導入

檜山医師会
奥尻町国民健康保険病院

泉里 豪俊

昨年度、道では離島や過疎地で遠隔診療に関連する機材を導入する自治体に対し、支援を募集しました。当院はそれに応募し、道内初で整備費の補助を受けました。記事を新聞で読まれた方も多いと思います。現在4月からの本格稼働に向けて遠隔診療システムの導入を進めています。

遠隔診療として想定しているのは、在宅患者や当院から約20km離れた特養老人ホームなどの訪問診療での連携、青苗地区にある診療所との連携、重症症例や当院で対応できない症例など総合病院に常駐している専門医へのコンサルトなどの病病連携です。システムの導入といいましても、内容は単なる医療者間コミュニケーションツール（株式会社アルム「Join」）やテレビ会議システムと、それに関わるパソコンやタブレットの導入、ネット環境の整備です。これらのツールをいかに生かすかは運用方法によります。現在運用に向けたルールを急ピッチで構築中です。そして、実際のシステムツールを見て、当初予定していた活用法よりも、さらに活用を広げようと現在模索中です。具体的にはJoinを利用した、職員間の効率的な情報共有を目的とした院内連携や救急車連携。そして専門医による遠隔診療です。このJoinですが、元々脳梗塞の早期の診断・治療のために開発されたアプリだそうです。機能は某SNSアプリに似たものですが、よりセキュリティ対策がしており、院内のPACSと連携し、画像閲覧や他端末と共有することもできます。

このJoinには、トラッキング機能という面白い機能があります。救急車と連携することにより、救急車の位置を把握できるというもので、救急車の来院に向けた事前準備ができます。実際に使ってみると、非常に良いです。業者の方が言うには、この機能は元々アメリカの大学の強い要望で実装した機能で、この機能を使った救急車連携での運用は当院が日本初事例とのこと。今現在まだ試用段階で本格稼働ではありませんが、常勤医2人で、外来、病棟、検査、訪問診療、場合によりヘリによる患者搬送、365日24時間二次救急に対応しなければいけない状況では、情報共有により周囲の動きが見えることは非常に有用だと実感しました。また宅直体制（総合病院の当直室よりは近い）の当院では、医師の当直時の業務低減にもなると思われます。

Joinは現在、大学病院などで導入されているところが多いようですが、当院のような僻地離島、小規模病院でも有効に活用できるツールではないかと思えます。